

昨年に引き続き、9月4・5の両日で韓国「川の日」大会が、京畿道城南市（キョンギドー・ソンナム市）にあるデザインセンターにて開催されました。

1日目の9月4日は「日本と韓国の河川文化ワークショップ」が開かれ、両国の代表者が講演を行いました。「日本の川の文化」と題し、日本の「川の日」ワークショップの実行委員でもある石田幸彦さん（八王子ランドマーク研究会）がお話をしました。石田さんの発表では、今年のワークショップの全体選考委員で写真家でもあった鏑山英次さんがこれまでに撮影した国内の川の素晴らしい写真37点が、会場のスクリーンいっぱいに映し出され、韓国側の参加者もその画像を食い入るように見入っていました。また、国土交通省河川局河川環境課の金尾調整官より、「日本における河川環境の保全と市民連携について」と題し、これまでの国の政策や日本の行政が市民活動についてどのように連携を図り支援をしているかについての事例発表がありました。



続いて、日本の第6回「川の日」ワークショップのグランプリ入賞河川として招待をされた竹内正美さん（だれでもばんぱく協会）と赤坂宗昭さん（縫ノ池湧水会）お二人の発表がありました。それぞれの活動紹介の後で、竹内さんは木曾節、赤坂さんと自費参加した縫ノ池湧水会の他のメンバー7名が「北国の春」（日本のふるさとの唄としての知名度が高い！ということかららしいです。）でそれぞれの自慢の喉を披露しました。

そしていよいよ「川の日」大会！今年の70団体が参加しました。

- ・公共事業
- ・パートナーシップ
- ・河川文化
- ・河川保全
- ・問題点の解決に向けて
- ・環境教育（都市河川）
- ・環境教育（大流域）



以上7つのテーブルに分かれて一次審査が行われ、各テーブルから2団体が二次審査に進みました。河川文化と環境教育のテーブルでは、子どもと先生、子どもと母親、高校生の寸劇による発表がありました。規格外の（A1×3枚分ほど？）のパネルもありましたが、立派な額に入れたり、立体的に作ったり、手作りの力作が並びました。



お昼休みにはホールにならんだ選外のパネルの敗者復活戦が展開されました。一般参加者で手に付箋を持っている人を見つくと、腕を引かれてパネルの前まで連行され、その一票を私たちにとかなり強気のアピール合戦。（でも、韓国語で熱く話されても\$%#*??分らないのです。）最終的にはその迫力に負けて道林川（ドリムチョン）に一票を投じました。）

見事グランプリに輝いたのは、鶴章川、準グランプリは、温泉川と中浪川でした。また、特別人気賞には良才川が選ばれました。（場所が特定できずすみません。）

大会の最後を締めくくったのは、参加者の代表が読み上げた大会宣言文でした。以下に、その内容を日本語訳したものを示します。

今年の応募者は主にソウル市内を流れる大河川である漢江（ハンガン）とその流域での活動団体が7～8割と、残りは釜山（プサン）を流れる温泉川等の団体がほとんどでした。来年の開催候補地はジョンジュ市かプサン市のいずれかになるとのことで、今から来年の開催が楽しみです。

第2回 川の日大会宣言文

今年は国連が決めた“世界水の日”を定めました。また今年の水の日テーマは“未来のための水”であり、環境の日のテーマは“水ー20億人口の渴望”でした。

これは現代を生きている私たちが次の世代のために健康な川を守り、向上させていかなければならない事を意味しています。

また、去年のWSSD（地球環境サミット）では、安全な飲料水と基本的な衛生施設のない国で生きている人口を、2015年までに現在の半分に減らそうという具体的な目標に国際社会が合意しました。

このように最近、全世界は水の確保に多大な関心と努力を結集しています。特に生態系の保全や水資源の安定的な確保は21世紀の人類最大の課題となったと言っても過言ではありません。

この経緯の中で、韓国内で川の運動に参加している住民と市民団体、そして学校と企業、行政機関など地域社会に責任がある関係者は川への価値を新しくし、流れる水から生まれる生命力を強く守っていくため次のように宣言します。

－21世紀人類存続の一番大切な資源である水を効果的に保存するために生命の根元である川を蘇らせる事に、私は積極的に行動しなくてはならない。

－河川、湿地の保存にあたり、流域住民の自発的な参与と努力をもっと協調しなくてはならないし、流域における管理と川を蘇らせる運動の市民活動を支援するための効果的な法案を立てなくてはならない。

－川は一つの水流として、上、下流間の相互理解と協力が、私たちみんなが生きていける道だということを認識して、上流の森と下流の都市が調和をはかれるように私たちの知恵を集めていなくてはならない。

－川が持っている生物層の多様性を尊重し、人間と自然バランスのとれた川文化の復元にも積極的に行動しなくてはならない。また、地域の特性を反映した新しい河川文化の創造に私たちの関心と努力を惜しんではならない。

第2回川の日大会の参加者一同は私達の大きな河川と小さな河川が流域共同体の構成員全員の愛情で、水と生態系が健全に維持されるだけでなく、人間と河川が共存する豊かな河川生命文化の花を咲かせるよう最大限努力していくことを誓います。

2003年9月5日 第2回川の日大会参加者一同
